

新年を迎えてのご挨拶

院長 宮野前 健

新年明けましておめでとうございます。

昨年は熊本地震も起こり、自然災害の多い国土であることを改めて感じました。その一方、自然環境に恵まれた当院で働いていると四季折々の変化、豊かな自然の恵みを楽しめる風土でもあることも日々感じています。

医療を取り巻く環境は毎年確実に厳しさを増しています。来年度には診療報酬と介護報酬、福祉のサービス費が、関連性をもちながら同時改定されます。厚労省はそれを「惑星直列」と例えて表現しており、医療現場では“ビッグバン”を予感させられます。どこにどうメスが入るのか、地域医療を担っておられる開業の先生方や病院は無論、介護施設、福祉サービス提供者はその行方を注視していますが、その具体的な方性が未だ見えて来ません。また地域医療構想と相まって医療審議会での京都府下の病床数見直しも控えており、気の休まる間がない一年になりそうです。

しかしそのような厳しい環境の中で、より皆様に親しみやすい病院・療養環境を目指して当院では現在「第二期工事」として、外来・検査・リハビリ部門や手術室・管理棟の建設が進行中です。現在の西病棟の南側に延べ床面積が約 7,000 平方メートルの 3 階建てが、今年秋に竣工予定です。工事期間中、皆様にはご迷惑をおかけすることになりますが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

当院は旧結核療養所としての歴史の流れの中、現在は幅広い呼吸器疾患と神経難病、慢性小児疾患や重症心身障害児(者)医療を柱に診療を行っています。その専門性を活かした地域医療、在宅医療・在宅支援への取り組みを地域の先生方と共に更に推進できればと考えています。

今年もよろしくお願い申し上げます。

「第16回CRCと臨床試験のあり方を考える会議」特別賞の受賞



臨床研究部 治験管理室 CRC・副看護師長 北地祐子

9月18-19日に開催された「第16回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2016 IN 大宮」において、特別賞を受賞しましたのでご報告いたします。南京都病院では、平成27年2月から新規アルツハイマー病薬の第I相試験を実施しました。当院で第I相試験を実施するのが初めてであったばかりでなく、当院のような中規模慢性期病院で第I相試験を実施するのは全国でも初めてのことでした。そのため、試験を安全に成功させるためには院内の関連部署の分業と連携を強化する必要があると考え、私たち臨床研究コーディネーター（CRC）が中心となって、各部署がそれぞれの専門知識、業務内容とその手順、連絡体制を共有できるように協議を重ねました。

その結果、国内第1例目の症例を登録し試験を終了することができましたのでこの取り組みを「患者対象第I相治験実施体制構築の取り組み～少人数の治験チームにできること～」と題して発表しました。

今回のこの荣誉ある賞の受賞は、いつも意見やアドバイスをくれるスタッフのおかげであると感謝しています。この気持ちを忘れずに、当院での臨床試験の推進にさらに貢献できるよう精進してまいりたいと思います。

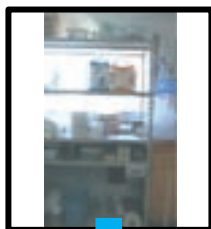


QC活動 国立病院機構本部 優秀賞を受賞して 臭いなんていわせません!こんなにきれいになりました ～感染管理の視点から汚物室の環境を考える～

看護部 感染防止対策プロジェクト 臭わナース隊

平成27年度の看護部感染防止対策プロジェクトの年間活動のひとつとして、1年間環境改善に取り組みました。感染管理の徹底が必要な汚物室にターゲットを絞り、毎月、全病棟の汚物室の写真を撮り、会議の中で問題点や改善策の検討を繰り返し行いました。重症心身障がい児（者）病棟では、臭いの問題があったため、使用済オムツ入れを

改善前



改善後



密封性のある台車に交換し、汚物室を保管場所としたことで運搬に伴う臭いの漏れを減少させることができました。使用前のオムツを設置する棚については、汚物室内に清潔不潔物品エリアを明らかにしたうえで、棚を設置したことで準備から後片付けまで容易にできるようになり、業務の効率化にもつながりました。

東病棟では、棚やゴミ箱を移動することで、清潔不潔エリアが分かれ明るい環境になりました。汚物室の環境を改善したことで、病院全体の汚物室の清潔な環境に対する意識が高まり、現場で働くスタッフの意識改善、やりがいにもつながりました。その結果、排泄物の臭いのない環境をつくることができました。今後も特段の努力をして更により良い環境を続けることを考えています。



「南京都病院呼吸器科で行っている臨床研究のご紹介」

副院長 坪井知正

南京都病院の呼吸器科では様々な臨床研究を行っています。全国的な研究としては、在宅酸素療法やマスク人工呼吸療法を受けている患者さんにおける睡眠薬の服用が、睡眠の質・生活の質および予後（長生きできるかどうか）にどのような影響を与えるのかを5年間追跡調査しています。

運動中の酸素投与量や投与方法に関して、どうすればリハビリ効果が最も得られるのかネーザルハイフローという装置も用いた研究が現在進行中です。マスク人工呼吸中の患者さんが昼間人工呼吸しない時間帯にどれくらいの酸素を吸うのが一番良いのかも研究しています。さらに、今年の春からは、夜間のマスク人工呼吸中の酸素投与量をどれ



くらいにしたらいののかの研究が始まります。

在宅酸素や人工呼吸中の患者さんは気持ちが落ち込んでいることがあるため、「笑い」が良い影響を与える可能性があります。お笑いのビデオやヨガなど用いた研究を企画中です。南京都病院では肺非結核性抗酸菌症の患者さんをたくさん治療しています。栄養状態がこれらの患者さんにどのような影響を与えるのかを調べる研究が、近々に始まります。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

こうした研究の成果として、2014年には、呼吸ケア・リハビリ学会の学会賞を坪井が、優秀演題賞を角がいただいています。2016年には、荏原が「長期NIVを受けている拘束性胸郭疾患でdaytime PaO₂が予後に与える影響－至適酸素投与量に関する考察－」で同学会の優秀演題賞を受賞しました。南京都病院では丁寧で親切な医療を提供していくと同時に、患者の方々に実際に役立つ様々な臨床研究を行い世界へ発信し続けたいと考えています。

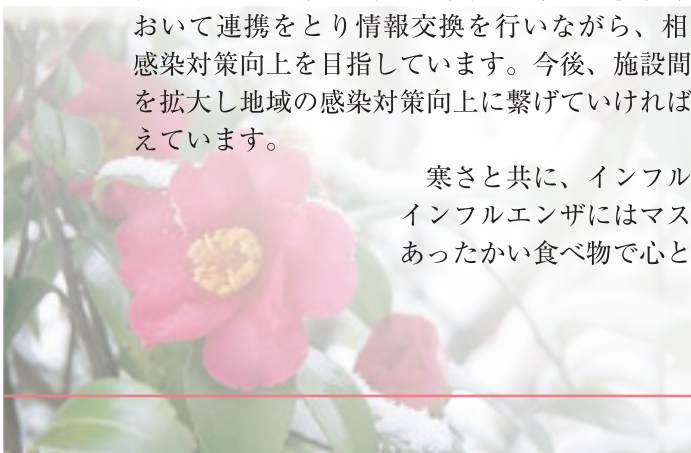
「感染防止対策活動について」

感染管理担当看護師 宮川英和

平成28年度より、当院は感染防止対策加算1の施設基準を取得しました。私は感染管理担当看護師として日々、感染対策に取り組んでいます。近年よく耳にする言葉に「医療関連感染」というものがあります。これまでは、「院内感染」などと呼ばれていましたが、多くの方が病院だけでなく、在宅ケアや老人保健施設など、様々な場所で医療を受ける時代となり、そのすべての場所での感染を考えるという意味で、「医療関連感染」という名称になりました。このような背景から感染対策は、一つの病院だけでなく、地域包括的な取り組みが必要であると言われています。当院は宇治川病院と感染対策において連携をとり情報交換を行いながら、相互の感染対策向上を目指しています。今後、施設間連携を拡大し地域の感染対策向上に繋げていければと考えています。



寒さと共に、インフルエンザやノロウイルスなどが流行するシーズンがやってきました。インフルエンザにはマスク着用と手指消毒が有効です。まずは手洗い、そして栄養のある、あったかい食べ物で心と体を癒し、十分体調管理しながら、長い冬を乗り切りましょう。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

かかりつけ医としての機動的な診療を目指しています

小沢 医院

内科・呼吸器科

院長 小沢 勝 先生



昭和55年京都府立医科大学を卒業後母校の第一内科に入局。血液幹細胞などの研究をした後、公立山城病院(現京都山城総合医療センター)で約18年内科勤務しました。その後平成18年より木津川市山城町JR棚倉駅前で妻の眼科医とともに開業しています。

かかりつけ医としての機動的な診療を目指しています。

南京都病院様には勤務医の時から現在に至るまで、抗酸菌症・肺癌・肉芽腫症・中皮腫・神経難病などの診断・治療で大変お世話になっています。

月例の画像カンファレンス・地域連携フォーラムなどにも参加させていただいており、今後とも病診連携を進めてゆきたいと考えております。

- 京都府木津川市山城町平尾南払戸112
- TEL 0774-86-0630
- FAX 0774-86-0631

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:30~12:30	○	○	○	○	○	○	×
午後診 16:00~18:00	○	×	○	×	○	×	×

- 休診日 木・日・祝



精華町を誰よりも愛するアイケア裕です

アイケア裕【ゆう】

訪問看護

居宅介護支援

訪問介護



平成27年6月に30代のうら若き女性を中心として相楽郡精華町光台に「アイケア裕」をオープンしました。「アイケア裕」は、居宅介護支援・訪問看護・訪問介護の事業を展開しています。

私たちは、地元精華町で、在宅

生活を支える事業所になりたいと考えています。

ケアマネ・訪問看護師・ヘルパーが共に考え合い、その方やご家族のためにチームとしてサービスを構築したい。まずは、自分たちの地元の人たちが、障害を抱えても安心して生活できる地域になってほしいという想いを胸に東奔西走しています。訪問看護は24時間体制で、高齢者・成人・小児の分け隔てなく、訪問しております。

また、認知症ケア・医療依存度の高い方への訪問・看取りケア・生活の中に役立つリハビリテーション等に取り組んでおり、ご本人やご家族から「また、来てね。」と言われる看護師になるよう切磋琢磨しています。

精華町を誰より愛する「アイケア裕」に応援をよろしくお願い致します。

- 京都府相楽郡精華町光台四丁目5番19号
- TEL 0774-93-2179
- FAX 0774-93-2179
- 営業日・営業時間
平日(月~金)
午前9:00~午後6:00
訪問看護24時間体制



臨床検査科の仕事

臨床検査科 荒木優利香

臨床検査科は、検体検査・細菌検査・病理検査・生理検査の4部門で構成され、病気の診断や経過観察のために、正しい検査結果を速く報告するように心がけ仕事をしています。

検体検査部門

採血した血液はここに運ばれます。赤血球、白血球及び血小板の数や形を調べたり、コレステロールや血糖などを測ります(写真①②)。

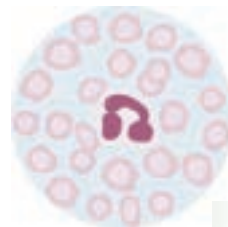
また血液型や輸血の時の副作用を防ぐ目的で行う検査、尿の成分を調べる検査も行っています。患者さんひとりひとりにおいて色々な検査項目を組合せることで病気の部位や病名の診断に役立ちます。



(写真①)



(写真②)



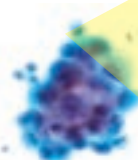
(写真④)

細菌検査部門

肺炎の原因となる菌を喀痰から見つけたり、膀胱炎の原因菌を検査して、どの薬（抗生剤）が効くかを調べます。

病理検査部門

喀痰や気管支鏡・手術で切除した組織から癌細胞（写真③）を顕微鏡(写真④)で探します。また手術中に癌をとり切れているか、腫瘍が悪性なのか良性なのかを診断する病理医の手伝いをします。



(写真③)



生理検査部門

心電図検査、超音波検査、肺機能検査、脳波検査など患者さんを直接検査します。肺機能検査は患者さんに協力して頂く検査ですので苦手だという方も多いのですが、検査方法をわかりやすく説明して声かけをすることで正確な結果を出せるように努めています。また睡眠時無呼吸検査は、夜間たくさんの電極やセンサーを身体に着けて眠っている時の呼吸の状態を見えています。

外来処置室前に「なるほど・ザ・検査 ミニ知識」という資料を準備しています。臓器別の主な検査項目ごとに簡単な説明や基準値などがわかりやすく記載されていますので、興味のある方は一度ご覧下さい。

『健康フェア』を開催しました

11月5日(土)にアルプラザ城陽店で～笑顔は健康なからだから～というテーマで『健康フェア』を開催しました。当日は看護、介護、栄養、薬剤、物忘れ等の各種健康相談や血圧、呼吸機能、骨密度、血管年齢等の検査計測を行いました。キッズコーナーでは看護師や医師の白衣を着て写真撮影を行いました。

今回は城陽市副市長の「じょうりんちゃん」の登場に子供たちだけでなく大人の方々も大興奮で記念撮影をされていました。当日は検査の結果や説明に一喜一憂されている方や日頃気になっていたことを真剣に相談されている方等、各コーナーのべ1400人と春の開催を超えるご来場をいただきました。



じょうりんちゃんとポーズ!



各種検査・相談は大盛況!

今後とも、地域の皆様に健康への関心を持っていただけるよう努力してまいりたいと考えています。

健康フェアスタッフ一同



● 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
 ● JR 学研都市線 京田辺から
 ● JR 奈良線 山城青谷から 徒歩 20分

*... 各駅より 送迎車あり

診療科のご案内

- 呼吸器科
- 神経内科
- 小児科
- 内科
- 外科
- 消化器科
- 呼吸器外科
- 循環器科
- 整形外科
- 皮膚科
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 麻酔科 (入院患者のみ対象)
- 歯科 (入院患者のみ対象)
- 耳鼻いんこう科 (休診中)

独立行政法人国立病院機構 南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ区にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
 TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
 URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

- 地域医療連携室
- ダイヤルイン 0774-52-0114 (内線 231)
 - 直通 FAX 0774-58-0270
 - E-mail renkei@mkyoto.hosp.go.jp